

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DA338／逸脱の社会学 (Sociology of Deviance)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	逸脱と統制のスパイラル		
担当者名 (Instructor)	土井 隆義(DOI TAKAYOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOC3210	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

逸脱という社会現象を素材にして、社会学的なものの見方・考え方を解説します。「逸脱をなくす」という当為の問題としてではなく、「逸脱をとおして社会を知る」という存在の問題として犯罪現象を扱います。

Professor will use the social phenomenon deviation as material to explain sociology perspectives and ideas. Students will not approach the problem as a task to be solved by seeking to eliminate deviation. Instead, they will approach the criminal phenomenon as existential problem by understanding their society through deviation.

授業の内容(Course Contents)

逸脱現象のなかでも特に日本の犯罪動向を題材として取り上げ、その増減が示唆する社会的な含意について考察します。また、犯罪を統制する側の社会がどんなロジックを有しているかについても考察を行ないます。

Among deviation phenomena, students will select Japan's criminal trends as materials. They will analyze social significance suggested by criminal trend fluctuation. In addition, students will analyze logics behind society that governs crimes.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション～逸脱と統制はどんな関係にあるのか～
2. 逸脱行動と社会統制(1)～社会的逸脱とは何か～
3. 逸脱行動と社会統制(2)～人格崇拜のアポリア～
4. 社会統制という変数(1)～社会統制の潜在機能～
5. 社会統制という変数(2)～認知バイアスの陥穽～
6. 社会病理と個人病理(1)～社会的属性と選択的統制～
7. 社会病理と個人病理(2)～社会的リアリティの変容～
8. 逸脱行動の社会要因(1)～つながりという変数～
9. 逸脱行動の社会要因(2)～相対的剥奪という変数①～
10. 逸脱行動の社会要因(3)～相対的剥奪という変数②～
11. 後期近代の逸脱行動(1)～文化遅滞の構図～
12. 後期近代の逸脱行動(2)～逶減する相対的剥奪～
13. 後期近代の社会統制(1)～セキュリティ化の進行～
14. 後期近代の社会統制(2)～セキュリティ化の陥穽～

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参考文献を読んでおくことで授業を理解しやすいでしょう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しません。

参考文献(Readings)

1. ハワード・ベッカー、2011、『アウトサイダーズ』、現代人文社
2. ロバート・マートン、1961、『社会理論と社会構造』、みすず書房
3. エミール・デュルケーム、1985、『自殺論』、中公文庫
4. E.H.サザランド、1974、『犯罪学1・2』、有信堂
5. 大村英明・宝月誠、1979、『逸脱の社会学』、新曜社
6. 土井隆義、2012、『少年犯罪(減少)のパラドクス』、岩波書店
7. 土井隆義、2010、『人間失格?』、日本図書センター

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)